令和元年度　教職員が考える義務教育学校のよさと課題

＜よさ＞

・他校種との交流
・子どもたちにとっての良さ
・上級生が下級生の面倒をよく見る（小中一貫とへき地小規模）
・中休み昼休みが安心できる
・小学部中学部の子どもたちに全職員がかかわる
・合同文化祭、全島運動会、敬老会など（地域との密接なつながり）
・小学部と中学部近づいた（低学年の子どもも中学の先生方の名前を知っている）
・小中が近いため、わからないことをすぐに聞くことができる
・小中の風通しがよくなった
・小学部中学部の先生方の働き方が分かった
・5年生以上教科担任制（専門性が高い）
・6年生の教科が増えた（中学部の先生と話す機会が増えた）
・お互いの不満を空気で感じ取ることができる
・1年目より「学園」という意識が向上（先生方の意識が高まった）
・中学部という見本となる姿がすぐそばにある
・2学期7年生が野菜について調べる授業を1・2年生にしてくれた
・教科専門性が高い先生がいるため、理科の授業について相談することができた
・教科専門の先生が教える授業を見て楽しさを感じた勉強になる
・小中が一緒のため、進路のことを考えるようになった（9年間のゴールが見える）
・小中の垣根がさらに低くなった（小中一貫→義務教育学校）
・以前に比べると地域とのつながりが深まっている（コミュニティースクール）
・学習内容のつながり・系統性を知ることができた（小学校の授業に行くことで）
・期末考査と単元テストの問い方が違うことに気が付いた
・教科の9年間の見通しが持てた
・小学校の先生が学習規律を大切にしていることに気が付いた
・小中学校の授業にＴ２で入ることで授業のアイディアをもらうことができる
・9年間を見通した個に応じた支援をやりやすくなった（目標管理シートで見える化）
・6年生卒業式がないこと→授業数の確保
・6年生を送る会、卒業式がないことも子どもたちはこだわっていない
・6年生の期末考査、「しっかり勉強しよう」と子どもの意識が向上
・6年生期末考査シビアな点数（単元テストも大切）
・6年生自分たちでやろうとする姿が見られる（6年生の意識向上）
・6年生のリーダーが少なくなったが他にもリーダーとなれているため大丈夫
・外国語教育→早期に他校より時間数多く、少人数で英語専任の先生が実施→魅力的
・Ｔ２Ｔ３が実施され、多動な子どもたちに対応できた
・少人数で行き届いた指導、手厚い指導ができる（成果物が作りやすい）
・給食→1つになってやりやすい、一斉に指導することができる
・児童生徒会→人数増加、意識向上

＜課題＞
・授業時数の差
・進路実現は中学３年では厳しい→小学部でここまで確実に習得を
・小中全教師が「15 の春」を共通認識（一緒に教えること教師の学び）→離島へき地小規模校の教育の理念を理解
・小学部中学部の働き方が違う（知らないことがある）→理解、経験者が説明
・中一ギャップはなくなったが必要なギャップもある（変われるチャンス）
・なだらかすぎて島から出た時のハードルが高い
・小学部中学部生徒指導に統一することに課題あり
・校務分掌を小中で持っているが連絡を教師間でうまくとれなかった、やり方・価値観の違いがあり難しかった→対話重視
・校務分掌分担に偏り→全体を見て授業時数の少ない先生が多く関われるように（先生方の良さを吟味して）
・小規模校授業時数確保→1 つの学校なので出張を担当者１名で柔軟性を行政に要請を
・理科は５学年準備が大変、継続観察などがあり、はじめてだったため見通すことが困難→小学部の先生から授業のアイディアをもらったり、週何時間か小学部からＴ２に入る
・Ｔ２で入りにくい（担任・教科担任のプライド？）→もっと入りやすく、どうぞどうぞ
・少人数なのでもう少し手厚くできないか→小学部から中学部にＴ２で入れないか、わからない子どもに手厚く、その子に合った宿題ができるのでは？、どこでつまずいたのかがわかるはず、同じものをさせることが平等ではない、先生方の意識改革→その時間を生み出す
・購入したドリル等が活用されていないことが悲しい
・学力向上の取り組みのため、朝の読書タイムが減った
・委員会活動がつながらない→初めてのこと知恵と指導を
・委員会活動で小学部の教師が何があっているのか見えない
・受験の理解を深めるためどうするか（子ども・教師）
・長くいる先生や地域の特色が強すぎて、新しいことをしたいと思ってもなかなか厳しい
・５学年を受け持っていると時間割の操作難しい（理科・教務は大変）→代案？
・バレーボール部活動のこと→今後の方針を打ち出す
・発達段階においての切れ目（４・５制と小学部中学部が入り混じる）→整理を
・1 年目は文化の違いを受け入れること（はじめはお互いの文化《言葉遣い・行動、担任制時間割自由》になじめない）
・小規模校独自の授業力向上→お互いの授業を見せ合う、ＯＪＴ（メンター制）と時間の確保、場の設定→2 年前のようにチームを組んで授業訪問を
・農協がなくなる→早めに対策を
・小学部と中学部の生徒指導の在り方違い→発達段階に応じてある程度は統一して
・英検→特色ある教育活動であるため、絶対に受けるように指導、年度初めに予算を確保
・連絡が確実に伝わらない時がある→１年から９年までのこと知っておこうという全職員の意識向上→小学部、中学部の教師が集まって話す時間の確保＋リーダーの配置
・来年度監査→今から準備を
・慣れないこと初めてのことチャレンジ中→もっとお互いに助け合う、寛容な姿勢
・部活動の多忙さに不満→保護者理解を得る、教師同士のお互いの協力と理解